

總持寺 香積台

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆  
近藤龍弘  
〒940-0052  
長岡市神田町1丁目4番地10  
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆  
安藤一夫 小林国二 小林善秋 高橋潔  
加瀬由紀子 近藤マリ子 近藤善信  
印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

## 慈悲の心を失ったとき

翠巖龍弘

(坂村真民)

第十九回冬季オリンピック大会も、十七日間にわたる熱戦に幕を閉じました。選手の競技に集中している姿をテレビで観戦し、常日頃一生懸命頑張ってきた結果が、多くの人々に感動を与えてくれたものと思われず。

しかし、薬物使用違反、採点や判定への不満も噴き出し、暗い影を落とした大会でもありました。国の名誉を思うばかり、また、勝つことだけを考えて、審判員・選手・コーチなどに正義感が薄れてきたら、オリンピックも大勢の人からソッポを向かれること間違いなしです。国内においては、ある食品会社が詐欺事件、ラベル貼り替えなどの不正が発覚し、消費者から信用をなくし、反発を受け、解散に追い込まれました。会社のトップの人達が、正直さをなくし、人間としてこういう事をやったら恥

ずかしいと感じなくなったせいではないでしょうか。

最近では、政治家や官僚の諸問題も大きな関心を持たれておりますが、私共総ての人々が人間としての道に外れる行為に、恥を感じ、正直さを大事にしていくことが大切ではないでしょうか。

現在の世界中の人々の遺伝子を辿っていくと、アフリカ東部の地溝帯で発見された四百万年前の人骨に辿り着くともいわれております。人類はアフリカ東部で発生し、進歩を重ねながら全世界に広がったとされています。

最近の「産経抄」に、探検家である関野吉晴さんが、南米最南端のチリを出発して、アフリカのタンザニアまでの五万キロを越える「グレートジャーニー」(人類移動の足跡)を逆コースで、八年の歳月を費やして成し遂げたことが掲載されておりました。

自転車でモンゴルへ到着し、遊牧民の母と娘に出会い、貧しくつましい生活の二人から、命の次に大切にしている馬を、アフリカまで行くのに必要だろうという優しい思いやりからプレゼントされたそうです。

関野さんが遊牧民の古老に「優しさと強さ、生きていくにはどちらが大切ですか」と問うと、即座に「強さが何になる？ 優しい人間でなければ、ここでは尊敬されない」と答えられたそうです。

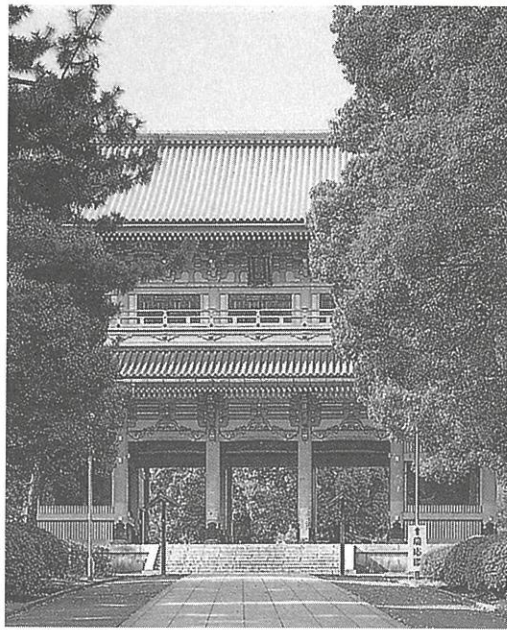
仏教は慈悲の宗教ともいわれておりますが、慈とは相手に喜びや楽しみを与えることであり、悲とは相手の悲しみや苦しみを抜きとってあげることです。この慈悲の心を持つことから、優しい正直な人間ができ、慈悲の心を失ったとき、正義感が薄れ、恥を感じなくなる人間になるのではないのでしょうか。

生も一度きり 死も一度きり 一度きりの人生だから 一年草のように 独自の花を咲かせよう

# 曹洞宗 大本山總持寺参拜

## 幸せを見つけたいすべての人々に開く禅の苑

文●安藤一夫



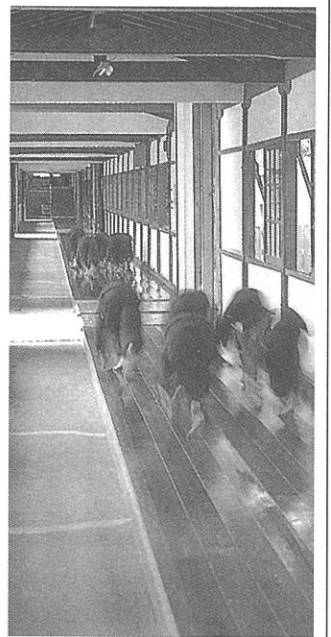
職を経て平成十年、大本山總持寺貫主と曹洞宗管長に就任された偉い方なんです。

会ってお話を聞けるのは、普通十分ほどと聞いていましたから、コチコチに固まって、ご挨拶で終わるのかなと思っていましたら、とんでもない。私たちを包み込むような柔らかな人柄で、森羅万象にわたったお話を一時間余りもお聞きすることができたのです。



後で聞いたら、こんなことはめつたにないのだそうです。きっと、単行本一冊分くらいのお話をしてくださいました。

印象に残ったお話に、「モラルの低下は、文化の



低下を招きます。若者の感情の表現を聞くときよくわかります。ハラが立つ、ムカつく、アタマにきた、近ごろはカッときただけで殺つてしまふ。これは何も若者だけの現象ではないけど、禅を中心にして道の文化をおこしたいと考えているんです。

「必要が人をつくるのです。必要が人をつくるのです。人間は自分たちの頭脳で、やがて人類を滅ぼしてしまうような気がします」。

板橋興宗禅師にお別れをして、修行僧さんが諸堂を案内してくださいました。

「ようこそ、お参りくださいました。私は近藤君と同期の修行僧、加藤と申します。よろしくお願ひいたします。ここは曹洞宗の大本山總持寺、もとは石川県門前町にあったのですが、明治三二年火

災で炎上したのを機に、明治四四年この鶴見に移されました。開山さまは瑩山禅師さまで、もう一つの大本山は、福井にある永平寺です。開山さまは道元禅師さまで、修行僧の修業道場、坐禅堂に案内されました。一人分が一畳、朝夕は坐禅をして、食事や睡眠も、ぜんぶここでとるとのこと。「起きて半畳、寝て一畳」とは、このことなんです。途中で百間廊下という長廊下にできました。百間ですから一八〇mですね。これがピカピカで鏡のようなんですよ。

の頭を垂れてしまいました。後で万歩計を見たら、諸堂を巡つて約二キロありました。諸堂の案内が終り、二ノ膳付きの精進料理をご馳走になりました。

本膳は、飯碗、汁碗、平皿、酢の物、花小鉢、青皿、赤壺、香皿の九品。二ノ膳は菓子碗、小鉢、天麩羅皿、胡麻豆腐、フルーツの五品。全部で十四品ですよ。



美味しさのあまり、私は完食してしまいました。總持寺は、全国の檀信徒の宿泊と大講堂など、研修の諸施設が整っているとのこと。「百間は一見にしかず」。ぜひ、皆さんも参拝に行かれたいと思います。

二月二十二日、梅がほころび始めた早春の鶴見・大本山總持寺に参拝しました。メンバーは、龍弘和尚夫妻、太刀川総代の奥さん、阿部さん（近隣寺院紹介の担当）、安藤夫婦、總持寺の檀家・田尾さんの七人。私は、皆さんと待ち合わせの間隙をぬつて、石原裕次郎のお墓を見に行きました。いやあ、ものすごい数の供花、びっくりしてしまつて、

お参りも忘れ不謹慎にもお墓をバックに記念写真を撮つてしまいました。總受付の三松閣に、修行一年目を終わろうとしている安善寺のご長男、真弘さんが現れました。本当に立派になりました！ 将来が楽しみです。今日は、總持寺の禅師様、板橋興宗（いたばし・こうしゅう）禅師にお会いする日。禅師様は金沢の大乗寺住

近隣寺院紹介

# 山本五十六、堀口大学などの墓所がある 普嶽山長興寺 長岡市稽古町

長興寺住職 安藤 俊英

当寺は、上州大胡より、牧野忠成公の移封に随従し、元和四年牧野家藩士の菩提寺として現在地に開創されました。

開山は牧野家の出身地であり、また上席家老職稲垣家の先祖が檀家であった縁から三河国、豊川稲荷で知ら



絵・禪道泰敏

れている妙巖寺九世天室伊弉大和尚が拝請されました。

また、歴代住職には数多くの名僧が晋住され、特に近世には「越後の生き仏」と称された十八世泰道泉明大和尚、「書の三傑」と称された二十世不牛真牛大和尚、「越後の今釈迦」と称され、救世

教を宣布された二十三世大道長安大和尚がよく知られています。

歴代住職の中には、たびたびの火災に烏有に帰した寺再建の重責を担い、尽力された方々も数多く、二十一世稲庵月泉大和尚は戊辰の戦いで戸板一枚のみという惨状の当寺に昇住されました。

折しも、神仏分離令が発せられ、檀信徒も僅か二、三十戸の藩士を残すのみ。そのため寺の不動産をすべて抵当に入れ、月泉大和尚の徳を慕って集まった約三十人の雲衲と行乞鉢鉢され、ようやく小千谷在の古寺を買って、明治三年八月十五日に入仏開眼落慶法要を厳修され、同時に戊辰戦役の戦没者供養を併修されました。月泉大和尚が心血を注いで再建された寺も、明治三十一年十二月十四日落雷の

## 流弘龍 読者とQ&A

**Q** お釈迦様が説かれた「四諦・八正道」の心理とは、どんな教えでしょうか？

ため、瞬時に焼失してしまいました。後、再建。しかし、昭和二十年八月一日、第二次世界大戦の長岡空襲にて再々度烏有に帰してしまいました。

ようやく昭和四十六年に前任職三十世大透文英大和尚が寺再建に着手され、檀信徒からの浄財と境内地の売却とにより、三ヶ年の歳月を費やして、昭和四十八年十月十日に入仏開眼落慶法要を厳修されました。現三十一世代に、老朽化のため平成二年七月から約二年間かけて改修補修工事を行い、現在に至っています。当寺には、連合艦隊司令長官山本五十六、詩人堀口大学、牧野藩家老職、稲垣・山本家などの墓所があります。

## A

前回、四諦(苦諦・集諦・滅諦・道諦)について説明しましたが、最後の道諦の内容を述べたものが「八正道」であります。つまり、苦の原因をなくすための方法として、左記の八種類の修行方法があげられています。

- 一、正見：正しいものの見方
- 二、正思惟：正しいものの考え方
- 三、正語：正しい言葉
- 四、正業：正しい行い
- 五、正命：正しい生活
- 六、正精進：正しい努力
- 七、正念：正しい念い
- 八、正定：正しい禅定(心の統一)

人生は「四苦・八苦」といわれるように、さまざまの苦しみに満たされており(苦諦)、それは欲望、執着などを断ち切れない自分自身が苦の原因を作り、その苦しみによって、さらに新たな苦の原因を作っており(集諦)、そのような欲望、執着などを断ち切つてしまえば苦しむ必要はないことになり(滅諦)、その方法として(道諦)、八つの実践徳目(八正道)があるわけです。それは「身・口・意」の三種

類の行い、即ち、身体でなす行為・口でなす行為・心でなす行為の全てを正しくするという事です。これら「四諦・八正道」は、仏教の目的である「悟り」に



向かう真実の教えではあります。実践することは大変困難なことです。欲望、執着などを断ち切れず悟ることの出来ない平凡な人間にとつて、出家も在家も共に救われる道として、紀元前後に「大乘仏教」(季刊第九号のQ&Aに掲載)が興り、日本にも大乘仏教が伝えられたのです。

世話人座談会

# 禅宗の根本は自分を見つめること。

## 宗教とは何か、お寺の意義は何か、季刊誌を通じて考えてみたい。

一月二十日、世話人の方々が集って、昨年の決算報告や行事などの会議を行いました。

そこで、時間をいただいて、季刊誌への期待やの抱負を皆さんにお聞きしました。

**結城** 周りの方たちを誘ってお寺の行事に参加することに意義があると思いますね。  
**菊田** 季刊誌に孫がネパールの話で投稿しましたが、作文大会に出したものです。中学校でもクラスで一位になりました。

**佐藤** 母がお寺の行事と言いますと、先代様のころより、いつも参加させていたでいておりました。今は、私が参加させていたでいておられます。  
**小林(善)** 編集委員をやらせていたでいておられますが、投稿される方がきま



方が多いものですから、多くの方に投稿していただければ、ありがたいと思いますね。  
**村田** お手伝いができなくて恐縮しているのですが、新年号は方丈様の「随處作主」を読ませていただいで、ありがたい思っております。  
**室賀** 私も勤務先で、会報の編集もしているのですが、季

刊誌はファイルして、孫まで読ませて読ませていただいでいます。わかりやすい編集内容で感心しております。ただまあ、寄稿される方が偏って来た感じなので、編集委員の方がご苦勞なさっているなあと案じております。原稿出せ出せと言つても、そう集めるものではありませんね。

**太刀川** 家内が俳句をやつていまして、季刊誌は家内が預かりっぱなしです。新年号もちらつと見ただけなんですよ。私は、前住様に世話人になれと言われて、お世話になって六代目ですから、お引き受けしました。そのうちに世話人会をやるから来いと言われたので出席したら総代になれと言われて今日に至っております。

**妙喜寺** 今回、投稿させていただいた妙喜寺でございませう。この間、檀家さんにお伺いしましたら、季刊誌をぜひ読みたいと思つただけど、お母さんが会社を持つていつて同僚に読ませているように、会社の皆さんも楽しみにしているようです。大変広いところで読んでいただいでありがたいと思つております。  
**箕井** 年とつてきますと一番困るのは、新しいことが出て



くるとわからないことが多くなるのです。日常生活でのヒントなどを一口メモで載せてもらえるとありがたいですね。  
**小林(国)** 誌面を埋めるのは大変ですけども、編集長といつも話しているのは、若い人にもっと参加していただかないかと。こういうことがあつたとか、ああいうことがあつたとか、自慢話でも結構ですから投稿いただけないかな、家庭の中のコミュニケーションのひとつとしての誌面を目指したいなあと思つています。最終的には、キリスト教の日曜礼拝みたいなものをできないものだろうか、人間の基本的な生き方を安善寺から発信できないかと思つています。



**高橋** 編集に係わつて、もつと若い方たちが係わつていくというような方法はないかと思つたんですね。先ほど妙喜寺さんがお話になりましたが、会社に持つていつて読み回すというありがたいお話が出ると嬉しくなるんですけど、これはまだまだ少数派だと思つたんですけど、私は編集をやんながら、大人が作る新聞ですから、どうしても難しくなつてしまつたんですけど、できたら子どもたちの投稿があるといいなあ、と思つているんです。上手じゃない文章でなくていいのです。子どもたちが素直に書いていただければいいのです。原稿を書くのは大変なこと



だけど思ったことを素直に、下手でいいから、大人も子どもも気楽に投稿していただきたいと思いますね。

**石丸** 夢ですが、将来はカラー刷りの冊子として季刊で発行できればいいなあ、と思いますね。私は小学校三年から六年まで、六人兄弟揃って習字を習いに来ておりました。懐かしい思い出です。小林さんが今、日曜礼拝という話がありました。これは大事なことだなあと思いますね。昔、経験があるのでですけど、日曜学校というのがありまして、お経を読んだですね。

「三つ子の魂老い果てるまで」といいますけど、忘れられない思い出です。小さい頃からお寺に行くのは黙っていても信仰心が湧いてくる源ではないかと思えますね。

**日山** 楽しく読ませていただいております。今後もっと身近な季刊誌に持つていくために、檀家の皆さんが積極的に参加されるのが一番だと思います。

**安藤** 季刊誌の一番人気が「ペコ大蔵日記」なんです。作家は、こちらの奥様ですけど、一言お願いいたします。

**近藤(マ)** 最初は娘が何気

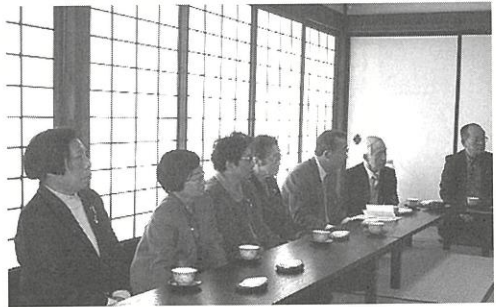
なしに書いていたのですが、嫁いだものですから、私を受け継いで書いています。意外と堅くない内容ですから、下手でいいと思えば書きやすいですね。それと、わからない日常のお寺の姿が垣間見られるのが、皆さんの人気をいただいているのではないかと思えます。住職と話していたのですが、私はお檀家さんに寄せていただきかないものですから、お寺にお見えになる方しか知りません。最近、印象に残る方が次々と亡くなられて、お別れ欄を書きながら、そんな方達の印象に残っていることを書いてみたいと思っております。なかなか実現しないのが現状です。



**室賀(仙)** 原稿を頼まれて、あれ書いて、これ書いて、それ書けばいいが。ううん、そうかということになって書きましたけど、原稿用紙に向かうとなかなか大変なものです。一言ぐらいのことでしたら、皆さん書けるのではないかと思います。家庭の中には必ずニュースがありますから。

**近藤(善)** 最初の頃から比べますと、内容が読みやすくなってきました。編集して感じてますね。それと、ホームページが発信できたから、若い方の関心が高まるのではないかと思います。

**住職** 皆さん、ありがとうございます。季刊誌は檀信徒



の皆さんには全員、普段行き来しているお寺様方に全員、そのほか友人関係にお配りしているのですが、つくづく感じるのが、一人ひとりの興味を持ち方が違うことですね。もっと専門的なことを書いて欲しいという方もいらっしゃると思いますし、ちよつと難しいと言われる方もいらっしゃると思います。焦点の当て方が難いんですね。季刊誌の目的のひとつは、檀信徒の皆さんとお寺の垣根がとれるのが一番の狙いですから、まだまだ直す点がたくさんあると思います。また、遠隔地の檀信徒さんは、季刊誌を楽しみにしていらつしやいます。それと、季刊誌の中で犬の「さくら」のことが書かれた事がりますが、お寺に来られると、今までは通り一遍の挨拶だったのが、「犬、どうしていますか?」って話題になり話が弾みますね。いつべんに親しくなります。日曜学校の話ですが、いいことだと思えます。けど、なかなか集っていただけなのが現実です。どうしたら継続的に集っていただけけるかが

前の悩みも、現在の悩みも、百年後の悩みも同じです。そういうときは話すと楽になる、そういう場所がお寺なのだろうな、季刊誌の役割なのだろうなあ、と思えます。また、若い人を対象にするなら、ホームページは必要になると思えます。

**安藤** 今年も季刊誌にご支援とご投稿をぜひお願いします。ありがとうございます。



案ずるところです。でも、折角この伽藍があるので、利用しない手はないと思いますねえ。禅宗の根本は、自分自身を見つめることですから、宗教とは何かとか、お寺の意義は何かとか、季刊誌を通じて考えたいですね。また、人間の悩みは二千年

# 読者からの便り

## 安善寺を守った櫟の森 ウキス興源寺住職 ● 田宮黎友

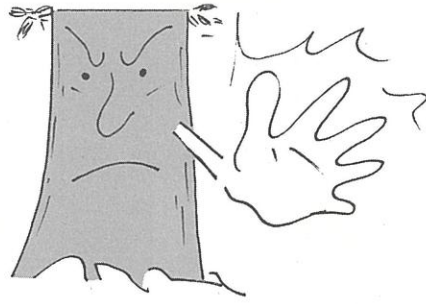
新幹線に乗って長岡駅に近づくと、右側に座席を取って目に入るのはいくつもの櫟の森である。改めて数えたことはないが、いくつかの森、そして電車が駅の構内にさしかかる頃、その際によく見えるのが櫟の森である。

かつて、在来線の頃には眺められなかった景色が、高架の新幹線になって楽しめるのは、安善寺様を親しく感ずるものとして、とても嬉しいことである。

右側だけではない。そのあたりは左側の風景も実に立派である。悠久山をかかえゆったりした山波、裾にひろがる広大な台地、大木、林、森、人が育つ台地として、私もいまでも新潟大学をここに移したいと思う。ゆつたりとした明るく、しかも奥深い風景である。こ

ういうところでは人は育つ。安善寺様の櫟の森は、ここにあるだけではない。あの一角を堂々たる風地となし、人々を憩わせ、気品をそえてくれる。

季刊紙『蔵王山安善寺』が発刊されて今年で五年目を迎えるというが、行間ににじみ出るのは、関係している人々の安善寺へのおもい。



だと思ふ。そのおもいをやさしく迎え、しっかりと包んでいくのが安善寺様の櫟の森だと私には思えてならない。

かつて大戦の夜、長岡全市をなめつくした戦火は、安善寺様をもひとのみにしたはずであるが、先代見龍方丈様の獅子奮迅の防火活

動と櫟の森のおかげで、お寺の伽羅群は救われたと私は聞いているが、その働きに手をさしのべてくれた櫟の森の靈気がいまだにやさしく、時には厳しく安善寺を守り続けて、人々の心を佛心に向かわせ、この季刊紙にある如く、ペコ大蔵やさくらまでが法悦の中に浸っているのではなからうか。

櫟といえば方丈の間に、大きくて立派な茶筆筒と角火鉢が置かれている。かつて私は、同じ方の作品という硯箱、文箱といった方がいいのかも知れないが、本堂改築で得た櫟材をも併せて用いて作られたものと聞いているが、共に私は現代の名品と思えてならない。

作者の村越石太郎氏は、西神田の住人で、平成六年八月一日に行年八十四歳で他界された方で、大工を職とし指物師としても名を成した方。木のことは知り尽くしておられた三十四、五歳の村越さんが昭和二十年の八月二日朝、安善寺大門前に立って、生き残った本堂を拝み、寺を守ってくれた櫟の靈氣

に感じてひれ伏したに違いない。安善寺様ようございませぬ。櫟様ありがとうと感激の涙を流したに違いない。その思いが安善寺の方丈に稀にみる作品をそこに置かせてあるのだらう。そうでなければ、ご命日が八月一日であることに符が合わない。櫟で守られている安善寺様は関係者の皆様の心の寄りどころなのである。

### お遍路の旅に出て

見附市 ● 笠井初江

平成十年から十二年にかけて、友人に誘われるままに越後三十三観音巡礼の旅に出かけました。

悲しみに明け暮れる私を友人が気遣ってくれ、お遍路さんへ出かけないかと誘ってくれたのです。

霊場を般若心経を唱え、延命十句観音経を唱え、次々と回る旅に「自分は一人ではない」、友がいて、家族がいて、神仏、亡き夫が常に見守っていてくれる。総ての人の輪の中で生かされていることに気づきました。

そんな中、巻町の大悲山景清寺でいただいた「慈眼視衆」の一節に、大変心打たれました。

別れる事は辛いけど、しかたがないんだ世の定め 淋しい夜空に涙が光る 両手合わせてみ佛を 両手合わせてみ佛を 拝めば和むにつこりと



これを読んだとき、涙がとめどなく流れ、亡き夫のためにもしつかりと、命の限り、精一杯生かして頂く、「生かさせて頂く喜び」に感謝し、家族揃って頑張つてゆかねばと、心を新たにしました。

この旅を勧めてくれた友人に、また気持ちよく送り出してくれた家族に、とても感謝しています。真にありがとうございます。合掌

## 安善寺春の行事

### 涅槃会 (団子まき)

お釈迦様の入滅された日  
三月十五日(金) 午前十一時  
法要・法話・お斎・団子まき

### 春季彼岸会

ご先祖さまの供養と心の修養の一週間です。  
● 彼岸入り法会  
三月十八日(月) 午前十時半  
● 彼岸中日法会  
三月廿一日(木) 午前十時半  
● 伊能様(エヌ・シイ・ティ 報道制作部長)より、長岡・白鳥郷の出身で臨済宗楊岐派一山派の「雪村友梅禪師」(三三九)についてのお法話をして頂きます。大勢の方々の参詣、聴講をお待ちしております。

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸中日法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

### ● 彼岸明け法会

三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半  
● 彼岸明け法会  
三月廿四日(日) 午前十時半

我が人生を考える

長岡市●小林十代次

ほ場整備事業の会合があり、遅く帰宅した。眠りについた頃、枕元の電話が鳴り、思わず取ると、東京から叔母さんが急に亡くなったとのこと。

翌日、長岡駅を十時三十分発のあさひ十号に飛び乗り、自由席であつたが座ることが出来安堵した。車中、喉が渴いたのでビールを買い、一本飲んだと思つたら、もう東京である。時計を見ると十二時二十分。新幹線はすばらしい。しかし、それからが大変だ。

中央線に乗り、立川着、青梅線經由東中神下車。二時三十分頃に到着。お参りをすまし、その日は昭島市のセレモニーで通夜があり、翌日立川の斎場などでこおりなく葬儀は終わった。お参りに来られた皆さんへの会葬御礼に、新潟県塩沢農協の魚沼産コシヒカリが配られた。

僧侶は、曹洞宗の広福寺さんで、先祖が亡くなられて六年振りにお逢いした。

通夜の読経の後、説教のお話の中で佛様の道しるべや、戒名の蓮香寿定信女について何やかやと一晚中考えてつけさせていただいたと言われ、人間、生を受け、名前が決まり、死を持って人生の終わりで、冥土への名前がつけられるのと。お寺さんも大変な職業なんだなあと思ひ、あらためて寺院を見つめなおしました。



翌日、十五分くらいの道りで広福寺様へお礼参りし、ご本尊様にお参りし、小高い墓地にある叔父さん

の墓に参り、空を仰ぎ、遠く彼方を見据えると、かすかに富士山が見えた。このような場所に眠られたら幸福だなあと思ひ、帰路に着く。

帰宅後、佛様に参り、家内共早めに床に着いたが眠られず、あれやこれやと思ひめぐらせ、いろいろのことが走馬燈の如く脳裏にちらつく。

「末代無智の在家止佳の男女たらんともがらは、心をひとつにして阿弥陀仏をふかくたのみまいらせ、さらに餘のかたへころをふらず、一心一向に佛をたすけたまへともうさん、衆生をばたとへ罪業は深重なりとも、かならず阿弥陀如来はすくいますべし、これすなわち念佛往生の誓願のころなり」。

若い頃は、将来のことはあまり考えず、農業一筋に働いてきたのであるが、この年頃になると、気力も体力も衰え、気配りだけが先行し、身体が着いて行けないのは私ばかりではないでしょう。やはり、先行きが短いのか、お寺にお参りし、御佛のお慈悲を仰ぎ、

明日への活力と鋭気を養い、余生を楽しく過ごしたいと思ひます。 合掌

五観の偈の意味を教えて

長岡市●H・O

今年もまた無量寿菩薩を頂戴いたしました。毎年、何気なく見過ごしておりましたが、箬袋の裏に五観の偈の五条が書いてあります。

これは私が以前、何かの会に参加させていただき、朝粥を頂戴しました折り、皆様でこの五観の偈を唱和した後にいただきました。それを思い出し、今年からは、食前に必ずこれを唱えてからいただくとうと決心しました。

ところが、意味が分かるようで分からない、ハッキリしませんので、ぜひ分かりやすくお教えいただけたいと思ひます。

希望をもって!

千葉原松戸市●片山為平

人は希望ある限り若く失望と共に朽ちる  
(サミエル・ウルマン)  
私はこの詩が好きです。

希望をもって! いつまでも背筋をピンとして歩きたいのです。

少しでも、チョットでも、世の中にお役に立つことが出来るのなら...

両親の故郷「長岡」、なつかしい街「長岡」。皆様のご健勝を祈ります。



絵・北海道紋別市/須藤秀雄様

本年もよろしく願ひします

長岡市●諸橋和男

新年おめでとうございませす。いつも季刊紙を御惠贈たまわりまして感謝いたしております。

この度は、安藤一夫様の名文に共感いたしました。

和尚様には本年もご指導の程、よろしくお願ひ申し上げます。

お育て法要・甘茶接待など

大本山永平寺御開山、道元禪師七百五十回大遠忌の参拜と京都の旅  
五月十二日〜十四日

大般若法会

六月十二日(水)午前十時半  
法要・法話・お齋  
(五月下旬に追ってご案内いたします)

お別れ

平成十四年一月〜二月末

岩永敏隆様 一月十一日寂

新潟中学校町

笛木ソノ様 一月十六日寂

新潟市坂井東

築取秀夫様 一月廿九日寂

長岡市水道町

板山文雄様 二月廿二日寂

長岡市中島

ご冥福をお祈り申し上げます。



# 自由に寝床を選べる日が 待ち遠しい



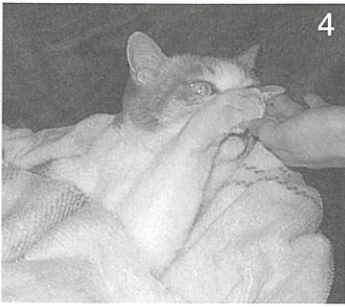
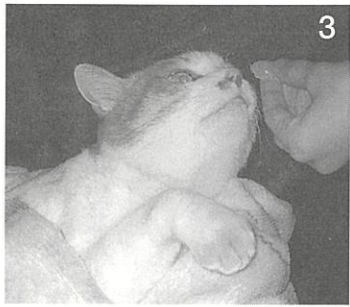
ペコのひとりごと

今冬は比較的暖かい日が多く、雪も少なかったため、時折、冷気を吸いたくなる私にとってはありがたいことでした。

まだ私も若く、子供達も小さかった頃は、私と一緒に

寝ると暖かいので、夜になると「ペコは？」と、子供達の間で私の争奪戦？ が繰り広げられていたのですが、今は子供達も家を離れ、私が年齢を重ねて肌寒くなってきたのに、お母さんは

可愛がってはくられても、布団に入って来られるのは大嫌い！ ときているものですから…。夜ストーブが消えると部屋の入り口で声を限りに泣くのです。



そうすると住職が「ペコおいで」と言って布団の中に入れてくれるのですが、それからが大変！ しばらくすると耳元で「ゴゴ」とすごい「いびき」が聞こえて来たと思うと、いきなりドスンと寝返りをするので、私はつぶされてしまいそうになり、おちおちと寝ていられなくなるのです。

朝になると住職が「ペコが一緒に寝たはずなのに、何処へ行ったのかな？」と心配してくれている声が聞こえると、私は住職の親切と暖かさに涙が出るくらい嬉しいのですが…。私にも辛いところがあるのです。

早く暖かくなって自由に寝床を選べる日が来るのが待ち遠しい限りです。

今号の私の写真は四コマカットです。すごいシャッターチャンスだと感心してしまいました。ぐつすり眠っていたら魚の良い匂いが漂って来たので、目を少し開けて見ましたら、私の目の前に魚を持った手があるではありませんか。もう我慢ができません、その手に私の手をかけ、あとは舌なめずりでした。

ニヤーン

## 編集 雑感

先日、所用で上京した。会議の会場に近い御茶ノ水駅で降りた。老朽著しいホームは、神田川の急崖にそれでもしっかりとしがみついている。風格すらある。学生時代、幾度となく通ったなつかしい駅だ。改札を済ませ、本郷方面へ向かうと、橋の欄干にもたれてじっと川を覗き込んでいる人影があった。足元にはいくつかの袋や破れたカバン、コートは切れて汚れている。ふと気になって、彼の見つめる辺りを見やったら、淀んだ神田川を小さな運搬船がゆっくりと進んでいる。昔は海がもっと近くまであったのだろう、たまに潮の香りがしたような記憶がある。左岸の土手を見てはつと

した。梅の花だ。満開の梅の木が数本、折からの夕日に白くほんのり紅色に輝いている。そのなんともいえない風情を彼は楽しんでいたのでした。私は、謡曲「弱法師（よろぼし）」を思い出した。（注：讒言により、家を負われた俊徳丸は悲しみのあまり、大阪四天王寺の境内で盲目の乞食となっていた。不憫に思い探しに来た父と再会し、故郷へ共に帰るといふ世阿弥の長男、観世元雅作の格調高い難曲）弱法師は、貧しい盲目の青年ではあるが、梅の香りを喜び、須磨に沈む夕日に日想観を念じるのである。

ホームレスの彼が何を詠じているのか、知る由もないが、咲き誇る梅に春を嗅ぎ、めでるゆとりを有することに救いを見た。

厳しい不況下、ホームレスが増えている。いつリストラや破綻の影響を蒙ることも限らないご時世だが、せめて花を愛でるゆとりを持ちたいものである。草萌える春はもうそこまで来ている。

(加瀬 由紀子)

## お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。同封のハガキは、ファックスでも、郵便でも送れます。気軽に、お便りをお寄せください。お待ちしております。

### 原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

第十八号、夏号は平成十四年七月四日(木)発行予定です。